

2 - 6 - 5 武家屋敷旧内山家

この建物は、幕末期に大野藩家老として活躍した内山七郎右衛門良休やその弟の隆佐良隆を輩出した内山家の旧宅である。母屋は平入りの木造切妻造り棧瓦葺き二階建てで、明治15年(1882)頃に建てられたが、大野城下の武家屋敷の旧態を比較的よく残している。

内山七郎右衛門良休は大野藩の藩政改革に尽力し、特に大野屋の開設など経済面で手腕を発揮した。藩主土井利忠・利恒の信任もあつく、万延元年(1860)家老に任ぜられた。廃藩後も大野屋(全国に30数ヶ所)を経営し、士族の救済を図るなどしたが、明治14年(1881)75歳で亡くなった。

説明板より